

探訪 北の風景 109

狩勝トンネル争議 十勝管内新得町

青木和弘

今年は桜の開花が早いようで、「新得神社山桜まつり」は5月上旬に開かれる。根室本線新得駅の跨線橋から上り方面を眺めると、神社のある新得山を色の濃いエゾヤマザクラが彩っている。

実は、根室本線の富良野―新得間が来年、2024年3月31日で廃止になることが3月末に決まった。十勝管内新得町といえば畑作と酪農、林業の町で、サホロリゾートやトムラウシ登山と温泉、新そば祭りなど、観光でもよく知られているが、新得には鉄道と切り離せない歴史がある。

北海道に鉄道が初めて開業したのは1882（明治15）年、手宮（小樽市）―幌内（三笠市）間の「幌内鉄道」（後の函館本線の一部と、幌内線・廃止）で、以降、歌志内や夕張の石炭輸送のため、次々と新線が建設された。

鉄道敷設には巨額の費用がかかるが、日清戦争（1894―195）に勝利して賠償金を得たことで建設に弾みがつく。96（明治29）年からは空知太（現砂川市）まで延びていた線路を旭川まで延長する工事が始まり、97年6月からは、旭川駅の開業を待たずに旭川―帯広間の「十勝線」（現在の富良野線と根室本線の一部）の建設が開始されている。

十勝岳の麓の美瑛を経由するルートで、ヒグマやオオカミが住む原生林や、アブやハチが飛び交う湿地など難所が多く、特に上川と十勝を隔てる急峻な狩勝峠は地質が複雑で、狩勝トンネル（954m）の掘削が1日に数十cmしか進まないこともある難工事だった。タコ労働で多くの犠牲者が出たという話もある。日露戦争による中断もあって完成したのは着工から10年後の1907（明治40）年で、新得駅の開業も同時である。

狩勝峠の冬の急カーブはラッセル車で除雪ができず、人力で行ったという。新得には駅員はもちろん、貨車の入れ替え作業を行う外勤職員や除雪も担う保線区員、機関区には機関士やカマ炊きの火夫である機関助手、整備士などがいて、新得は多くの鉄道員が居住する鉄路の要衝だった。

終戦後、占領軍の民主化政策で、治安維持法などで拘束されていた人々が解放され、日本中で労働組合の結成が進み、労働条件の改善を求める争議が頻発する。新得では48（昭和23）年、狩勝トンネルの過酷な労働環境の改善を訴えて始まった機関士らの「狩勝トンネル争議」が、全国の耳目を集める大争議に発展した。



狩勝トンネルの新得側入り口。新トンネルが完成し、1966年の新線切り替えて廃止された。狩勝トンネル争議の舞台であり、この入り口の上に、列車の後部がトンネルに入ったら、収納した蛇腹状の幕を下ろして乗務員の煤煙被害を軽減する装置が設置され、保線区員によって毎日24時間運用された。写真左下に説明板がある

狩勝トンネルは「魔のトンネル」と呼ばれ、勾配が1000分の25と急なうえ、貨車がトンネルからはみ出るような長大列車が、補助機関車も含めて40分で1トンもの石炭を投入して低速で走行したため、トンネル内は55度前後の高温で、逆巻く煤煙と熱気で息が詰まり、ぬれた手ぬぐいで顔をおおって通過した。特に機関助手は肉体の限界を超える労働環境で殉職者も出ていた。

争議から3年後の51（昭和26）年、組合つぶしも言われた「まりも号事件」が起きた。5月17日、釧路発函館行きの特急列車「まりも」号が、新得駅から狩勝峠にさしかかったところで脱線し、蒸気機関車が転覆した。上り坂で速度が出ていなかったため乗客約470人にけがはなく、機関士2人が軽傷を負うだけで済んだが、もし速度の増す下り坂だったら多くの犠牲者が出たにちがいない。原因は、故意にレールの継ぎ目板を切





帯広から新得に到着した普通列車は、富良野方面の線路が2016年の台風被害から復旧していないので折り返し運転をしている。乗客の降車後、いったんホームを離れ、待避線に移動する。正面の山が新得山で新得神社がありエゾヤマザクラが美しい

そばの館の「寒晒（かんざらし）そば」。寒風で乾燥させ、ほのかな甘味が増して風味とのど越しがよい



新得駅を中心に根室本線と国道38号の間が市街地で、商店街も公共施設も近くにあって便利な街だ

断してレールを4 cm ずらすという、49年に発生した未解決の「松川事件」と似た手口だった。新得は「狩勝トンネル争議」の拠点だったから、警察は労働組合関係者を重点に600人規模の事情聴取を行ったが、物的証拠や目撃証言はなく未解決に終わった。当時、中国での共産勢力が優勢で国際情勢が動き、日本の占領政策が変わって、ゼネストに発展しかねない争議の抑え込みが図られていた。49年6月には行政機関職員定員法の施行による、公務員約28万人、国鉄職員約10万人の削減という空前の人員整理が計画され、50年7月4日に下山国鉄総裁が3万人の第一次解雇通告を行った翌日に轢死体で発見される「下山事件」が起きている。同年には共産党員を公職などから追放するレッド・パージが行われ、労働争議への影響力の排除が行われた。そんなさ中に起きたのが新得の「まりも号事件」であった。